



桜台小 6年生だより
令和5年 1月31日
人権特別号



1月に6年生で人権学習の授業を行いました。その時に「差別する」の反対語は「尊重・尊敬する」ことだと話しました。「『尊敬する』では言いすぎだ」と思う人がいるかもしれませんが、どんなに欠点が多い人でも尊敬できるところが必ずあります。人の尊敬できる側面を見ることで、人と人とは平等で対等な関係になれます。その人のことを全面的に尊敬できなくて否定し、批判するところがあってもいいと思います。しかし、尊敬する面と必ずセットでその人と付き合っていくことがとても大切なことだと思います。道徳のある教科書に、中学3年生の書いた「リスペクト アザース」という作文が載っていました。授業の中で、「人を尊敬する」という意味がよくわからないという人もいたと思うので、裏面に「リスペクト アザース」の文章を載せておきます。一度読んでみてください。

何人かの6年生が授業の感想を寄せてくれたので、少し紙面を借りて皆さんに紹介したいと思います。

- 前から差別はいけないことだと思っていたけど、自分は差別をしていないから、関係ないと思うこともあった。でも今日の話を聞いて、差別をされた人がいたら、差別をしている人を止めたり、反差別を訴えたりしたいと思った。
- 仲間がいたり、周りに自分を支えてくれたりする人がいるから、自分もがんばれるし、やっぱり「仲間の力はすごいんだな」って感じた。中学校ではいっぱい仲間を作りたいと思った。
- まずは自分でため込まずに、仲間に相談をして支え合えたらと思った。西光さんみたいになくす活動ができるし、やめようとするので、まずはみんなと支え合うことが大切で大事なことだと思った。
- 今も昔も差別をなくしたいと思う人がいるということがわかった。人権ポスターなど、自分でできることを探して、いじめを受けている人を救いたいです。
- 差別はずっと昔からあるんだなと思った。だから難しいとは思うけどなくしたいと思った。そのために、差別やいじめを受けている人がいたら、同情するんじゃなくて一緒に行動を起こしたいと思った。
- 「水平社宣言」は、差別をなくすためだけではなく、人を尊敬することや大切にすることも伝えているのだと思った。水平社をつくった人たちのようになるには、経験が必要かもしれないけど、意志の強さと支えてくれる仲間が必要だと思った。私も西光万吉みたいなことまではいかないけれど、少しでも反差別を支持できたらと思った。
- 水平社をつくった人たちは、同情がほしいのではなく、自分を希望に導いてくれる人がほしかったのだと思う。自分も人を助けられる人になりたいです。
- 差別のない世界があたり前になっていくために、支えられるだけじゃなくて、自分も誰かを支えていきたいと思った。差別のない世界には、たくさんの人の温かさ、希望とたくさんの人の力が合わさってできる団結力があるんじゃないかと思った。まだ気づけていない人の温かさに気づいていきたいです。
- 平等にするという事は、言葉ではなく、行動で示すべきだと思った。差別やいじめをみんなと団結してなくして時代を切り開いていきたいと思った。
- 西光万吉さんのように、自分が苦しくても行動したら周りの人たちが助けてくれるはずだから、積極的に行動することが大切だということがわかった。
- 水平社宣言に込められている熱い思いがよく伝わった。「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という言葉が一番心に残った。
- 水平社宣言から、人を差別せずに尊敬していくという事を知ったから、差別を少しでも減らせるように、みんなと平等に接していきたいです。人権を意識して、人をばかにしたりせず、楽しく過ごせる空間をつくっていききたい。
- 差別をされてきた人たちが、自分たちのような人が増えないようにと思って行動したところがすごいと思った。私は、誰かを差別したりしないように受け止め、いっしょに進んでいこうと思った。
- いじめられ、つらい思いをしながらも仲間と共に差別をなくそうと大きな行動を起こしたことがすごいと思った。自分がおかしいと思ったことに対して行動に移すことは、自分も参考になれると思った。差別された人々は、これほどつらい思いをしていると知り、差別は本当にやってはいけないものだと感じた。



水平社宣言の「尊敬」には、『人の存在そのもの、生きている事そのものが尊い』という理解があります。当時、西光万吉やその仲間たちは「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という結びの言葉にどんな思いを託したのでしょうか。2022年3月3日で全国水平社創立100年を迎えました。100年前の差別をなくそうとした先人たちの思いに心をはせ、ひと(相手)を大切にする意味を一人ひとりが振り返るきっかけになればと思います。(文責 北住 昌文)